

地域県土警察常任委員会資料

(令和8年4月21日)

[件 名]

- 鳥取県立美術館の開館初年度の運営状況等について
【美術館】・・・ 2ページ
- 令和7年度「鳥取県人権意識調査」の結果について
【人権・同和対策課】・・・ 4ページ
- ガイナーレ鳥取の2025シーズン活動結果等について
【スポーツ課】・・・ 5ページ

地域社会振興部

鳥取県立美術館の開館初年度の運営状況等について

令和8年4月21日
美 術 館

鳥取県立美術館の開館初年度の運営状況等及び2年目企画展等について、報告します。

1 開館初年度の利用者数等

期 間	利用者数	うち、企画展・コレクション展観覧者数
令和7年3月30日～ 令和8年3月31日	317,659人	154,170人 ※企画展・コレクション展 108,725人 ※コレクション展のみ 45,445人

<利用者数の推移>

3月30日（開館初日）	3,500人が利用
4月20日	3万人を達成
4月26日～5月6日 （ゴールデンウィーク期間）	24,978人（館外イベントを含む。） ※5/5(月・祝)には5,562人（1日の最多利用者数）が利用
6月14日	10万人を達成
6月28日・29日	コレクション展観覧者の2日間計5,436人 ※日本海新聞社の法人スポンサー「コレクション展パートナー」によるコレクション展の観覧無料デイ及びイベント「日本海新聞&NCN アーッと楽しい感謝祭 in 県美」の開催 ⇒2日間の利用者計9,309人
8月2日	夜間開館時間帯 2,078人 （美術館前の史跡公園で倉吉打吹まつり開催 まつり来場者:2.4万人）
8月9日～8月17日 （お盆期間）	24,144人 ※月曜日も開館 ※8月9日・10日の夜間開館時間帯の利用者計1,672人
9月12日	20万人を達成 ※「とっとり県民の日」として、コレクション展観覧無料(通常:一般400円等)
9月27日・28日	やきとり JAPAN フェスティバル 2日間の利用者計5,340人 （北海道から沖縄まで焼き鳥の名店が終結 イベント来場者:9.5万人）
10月19日	彬子女王をお招きした特別記念講演会 約120人が聴講 ※「The 花鳥画展」の関連プログラムとして実施
2月28日	30万人を達成
3月8日	303,939人（30万サンキュー・サンキュー）セレモニー
3月29日	開館一周年記念イベント「どんどこ！巨大紙相撲-とっとりけんび場所-」 ※巨大紙相撲制作のための段ボールを提供いただいた三和段ボール工業株式会社の協賛（コレクション展パートナー）によるコレクション展の観覧無料デイも実施

<各企画展の観覧者数>

- ・「アート・オブ・ザ・リアル」(3/30～6/15) 50,863人
- ・「水木しげるの妖怪 百鬼夜行展」(7/19～8/31) 34,920人
- ・「The 花鳥画-日本美術といきものたち」(10/11～11/24) 17,237人
- ・「CONNEXIONS | コネクションズ-接続するアーティストたち」(2/7～3/22) 5,705人

<30万人サンキュー・サンキューセレモニー>



303,939人目のお客様をお迎えした記念
セレモニー

<どんどこ！巨大紙相撲-とっとりけんび場所->



1階ひろまを会場に、美術館は大歓声に
包まれ、多くの来場者とともに賑やかな
一日となりました。

2 県立美術館における PFI 事業に関する評価

- ・要求水準及び年次計画書における事業の実施状況としては、PFI 事業者において、総括責任者や統括マネージャーの設置など必要な実施体制を整え、業務遂行上、法令等の遵守に努め、情報発信、接客、ブランディングなど民間の強みを生かした運営により、年間利用者数 20 万人という目標を早期に達成することができたことなどから、まずは順調な1年目であった。
- ・2年目に向けて、引き続き適正な運営を確保するとともに、開館という祝祭性が後退することも見込み、県及びPFI 事業者が連携し、一層の美術館の魅力向上や利用者拡大を図る。

3 開館2年目（令和8年度）の企画展

ポップ・アート時代を変えた4人” POP ART:THE FAB 4! & 4 SPECIAL GUESTS”（4月11日～6月14日）

〔概要〕

- アメリカのポップ・アートを代表する4人のスター作家 ウォーホル、リキテンスタイン、ラウシェンバーグ、ジョーンズの版画作品を中心にポップ・アートの魅力に迫る企画展（巡回展）。
- ウォーホルがデザインしたR・ストーンズのレコードジャケットなど、音楽、映画、ファッションなどにも大きな衝撃を与えたポップ・アートの当時を物語る作品を展示。
- 4大作家の他、「LOVE」の単語を正方形に配置した作品で知られるロバート・インディアナなど、ポップ・アートを担った作家を「特別ゲスト」として紹介し、ポップ・アートの多彩な表現を伝える。

マンガを拓く 谷口ジロー展（7月11日～8月30日）

〔概要〕

- フランス政府から芸術文化勲章を受章し、ヨーロッパで高く評価されている漫画家谷口ジロー。近年は日本でも「孤独のグルメ」、「歩くひと」のドラマ化や、今秋映画化の「遙かな町へ」など作品が広がりを見せており、本展では約半世紀にわたる創作活動の中で生まれた多彩な作品を原画等を通して紹介。
- 動物、自然、文芸、SF、散歩、食、家族など様々なテーマの作品の原画・複製画が150～200点程度大集合。「絵に語らせる」丁寧な筆致と、深く緻密な人間描写など、谷口ジローの表現力の秘密を紐解く。

映画「遙かな町へ」公開記念展 谷口ジロー特別展（10月頃～11月頃）

〔概要〕

- 映画「遙かな町へ」の公開を記念し、県立美術館内「特別展示コーナー」（3階）等において、谷口ジロー特別展を開催。
- 映画メイキング映像の放映をはじめ、撮影時の写真や複製画の展示等を実施。

生誕130年 前田寛治 —ポエジイとリアリズム（10月10日～12月13日）

〔概要〕

- 鳥取県が誇る洋画家・前田寛治の生誕130年を記念し、前田寛治の代表作を含む作品約80点を展示。
- 前田が仲間とともに設立した「一九三〇年協会」の創立100年も併せて記念し、創立メンバーである里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三、木下孝則をはじめとする同時代の洋画壇の寵児たちを一堂に紹介（巡回展）。

ゴジラ生誕70周年記念 ゴジラ・THE・アート展（2月11日～4月11日）

〔概要〕

- 今なお色褪せず日本だけでなく世界中を魅了する存在であり続ける「ゴジラ」。
- 養老孟子氏をゼネラルプロデューサーに迎え、現代のクリエイターたちがゴジラという存在をテーマに制作した挑戦的なアート作品群による大規模な展覧会（巡回展）。
- ゴジラの造形美や映像の魅力についても、各種ミニチュア映像、資料などの展示により紹介する。

4 その他

○ミュージアム・スタート・バス（小学4年生バス招待事業）

県内すべての小学校・義務教育学校・特別支援学校小学部の4年生を招待し、学芸課スタッフやボランティアなどファシリテーターが案内役となり対話をしながら作品鑑賞を行うミュージアム・スタート・バスについて、開館2年目以降も継続して実施予定。

〔令和7年度実績〕 児童・教員数：4,686人、学校数：110校

○ユニバーサル美術館に向けた環境づくり

美術館にアクセスしづらい方々を対象とした特別鑑賞会に関する開館初年度の試行を踏まえ、障がいがある方でも作品鑑賞を楽しんでいただけるよう手話動画や触図の作成、特別鑑賞プログラム等の導入・充実を進めていく。

令和7年度「鳥取県人権意識調査」の結果について

令和8年4月21日
人権・同和对策課

県内に暮らす方々の人権に対する意識を明らかにし、今後の人権施策を効果的に推進することを目的として令和7年度に実施した「鳥取県人権意識調査（第6回目）」について、このたび集計結果がまとまったので、その概要を報告します。

1 調査概要

- (1) 対象 : 16歳以上の県内在住者 約3,000名 (抽出方法: 住民基本台帳に基づく無作為抽出法)
- (2) 調査客体数 : 2,983名 ※ (1)で抽出した者に送付した調査票に関し、宛先または転送先不明等により返送された調査票を除いた数。
- (3) 有効回答数 : 1,267名 (回収率42.5%(1,267/2,983))
- (4) 調査時期 : 令和7年5月 (前回調査: 令和2年5月)
- (5) 調査分析 : 「鳥取県人権尊重の社会づくり協議会」に設置した「鳥取県人権意識調査実施検討小委員会」において検討、分析を行った。(第1回: R7.9月、第2回: R7.11月、第3回: R8.1月)

2 主な調査結果概要

<差別等の実態>

- 「過去5年間で、差別や人権侵害を受けたと思ったことがあるか」との設問について、「よくある」「たまにある」と回答した割合は14.6%で前回調査より減少しているが(前回15.8%、▲1.2%)、前回と比べると「性暴力」(3.2%(対前回: +2.8%))「セクシュアル・ハラスメント(性的嫌がらせ)」(7.6%(対前回: +3.1%))を受けたと回答した割合が増えている。
- 「インターネット上の掲示板・SNSなどに他人の個人情報や悪口を書き込むのは人権を侵害する行為だと思う」との設問について、年齢別で見ると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた割合は全ての年代で9割以上となっており、20歳代から40歳代が特に高い(20歳代: 98.5%、30歳代: 98.0%、40歳代: 98.8%)。
- 女性、障がい者、子ども、ハンセン病やその他の感染症、犯罪被害者などに対する県民の人権問題の認識は比較的高く、性的マイノリティに関しても、理解が進んでいる一方で、「外国人が増えると治安が悪くなると思う」との設問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した人は46.1%と前回(34.7%)より10%以上増加している。
⇒職場や学校での嫌がらせやいじめ、差別待遇(不平等・不利益な取扱い)やプライバシーの侵害など、日常生活の中で様々な人権侵害が発生している一方で、人権政策も拡充しており、あからさまな人権侵害や差別は以前より対面的に表明されにくくなっている状況。
また、県民一人ひとりの人権に関する感知度が高くなることで、「差別や人権侵害を受けた」と感じる場面は増えており、今後の研修や啓発活動に向けて勘案していきべき要素となっている。

<同和問題(部落差別)に関する調査から見えるもの>

- 「同和問題(部落差別)について学校の授業等で学び、理解が進んだ」と回答した人は、結婚や就職に際して身元調査をすることに「身元調査は絶対にしてはならない」「身元調査はしなくてもよい」と回答する割合(73.9%)が高いだけでなく、様々な人権教育・人権啓発に関して研修や新たな取組が必要と回答する人が多い。
⇒同和問題(部落差別)についての学びは、当該問題だけではなく、その他の人権問題の解消への意識の向上にもつながるものと考えられる。

<様々な人権問題に関する共通の課題等>

- 過去5年間に受けた差別、人権侵害については、前回調査に続き職場での嫌がらせやいじめ(パワーハラスメント)の割合が最も高い(42.7%)。
⇒企業や事業主等へも、人権に関する研修や啓発の取組の充実を働きかける必要がある。

《参考》過去の調査実施状況

第1回: 平成9年8月、第2回: 平成17年2月、第3回: 平成23年2月、第4回: 平成26年5月、第5回: 令和2年5月

ガイナレ鳥取の2025シーズン活動結果等について

令和8年4月21日
スポーツ課

ガイナレ鳥取の2025シーズン（2025年2月～12月）成績及び2026シーズン移行に伴う「百年構想リーグ」戦績のほか、地域貢献活動、経営状況等について概要を報告します。

1 2025シーズン成績等

- (1) 11位/20チーム（15勝6分け17敗、勝点51） ※2024シーズン13位/20チーム
 - ・Jリーグに参入した2011年（H23年）以降ホームゲームでは最多の15勝
 - ・ホーム戦観客数年間53,873人、平均観客数2,835人/試合（昨シーズン2,434人（16%増））
- (2) 1試合来場者数最多を記録（11,995人）
 - ・「全緑サマーフェス」（R7.8.23松本山雅FC戦）にクラブ創設以来最多11,995人来場
 - （2013「ガンバ大阪」戦（10,096人）以来の1万人超）



全緑サマーフェスでの試合

【参考：2026シーズンよりJリーグは「秋春制」に移行】

- ・夏季の猛暑等を避けるため、8月開幕～翌年6月閉幕の「秋春制」に移行（現行2月～12月）
- ・シーズン移行に伴う空白期間（2026年2月～6月）に特別大会「百年構想リーグ」を開催中
＜百年構想リーグ概要＞
 - ・J2、J3の40チームが地域ごとに10チーム4グループに分かれ、ホーム&アウェイ形式でリーグ戦を開催。
 - （昇格・降格なし）※ガイナレ鳥取は主に九州を拠点するチームとの試合
 - ・4/15時点で、8位/10チーム（4勝5敗（うちPK戦が2勝2敗））

2 主な地域貢献の取組み

- (1) サッカースクール
県内4か所で子ども（年中児～小学生）を対象にスクールを開催し、未経験者向けの基礎練習や経験者向けのスキルアップを指導。
（R7年度は延220回、8,360名参加）
- (2) アウェイゲームで鳥取県PR（プライドオブ中四国）
中国・四国地方のチームとの試合でブース出展、鳥取県の観光情報等をPR。
（R7年度は、カマタマーレ讃岐、高知ユナイテッドSC戦に出展）
- (3) 誠道アカデミー（令和7年4月開所）
旧誠道小学校（境港市）を改修、寮や合宿で活用中。
境港市内の他校に県外等から入学した生徒の寮及びセーリングチームの合宿等でも活用され、現在25名が入寮。
（寮の定員30名、合宿等では最大70名まで利用可能）



アウェイゲームでのPR(高知県)



誠道アカデミー

3 臨時株主総会

- (1) 日 時 令和8年4月16日（木）午後5時30分
- (2) 場 所 オールガイナレYAJINスタジアム（米子市安倍1-1）
- (3) 決議事項 資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分・・・承認
繰越損失の解消により財務基盤の強化を図るため、資本金を資本剰余金に振り替える無償減資（払い戻しを伴わない減資）等の会計上の処理を行うものであり、県の持株数及び株式の価値（600株、3,000万円）に影響はない。
(
 - ・資本金231,385千円のうち225,295千円をその他資本剰余金に振替（無償減資）
 - ・資本準備金166,935千円を資本剰余金に振替
 - ・増加する資本剰余金392,230千円を繰越損失に補填)
- (4) 今後の経営方針
 - ・地域貢献に一層取り組み、サポーターの獲得等を行うなどして入場料収入の増加を見込む。
 - ・「誠道アカデミー」（境港市）での合宿受入等を強化し、更なる収入増に向け取組む方針。